



## アメリカ

### eスクーターの危険性

- Austin Public Health [https://austintexas.gov/sites/default/files/files/Health/Epidemiology/APH\\_Dockless\\_Electric\\_Scooter\\_Study\\_5-2-19.pdf](https://austintexas.gov/sites/default/files/files/Health/Epidemiology/APH_Dockless_Electric_Scooter_Study_5-2-19.pdf)
- CRホームページ <https://www.consumerreports.org/product-safety/nearly-half-of-electric-scooter-injuries-in-austin-were-severe/>  
<https://www.consumerreports.org/product-safety/e-scooter-ride-share-industry-leaves-injuries-and-angered-cities-in-its-path/> ほか

片足で地面を蹴って進むキックスクーターに電動モーターを搭載した電動キックスクーター(以下、eスクーター)は、30km/h以上になることもあり、超小型ながら便利な交通手段である。アメリカでは2017年秋頃から、レンタルeスクーターとして、乗り捨て自由で駐輪場不要のライドシェアサービスが開始され、今では多くの都市で展開されている。手軽で、歩くより楽な速い移動手段として、また、自動車に依存せず環境にもよいことから急速に人気が高まったが、走行中の事故も急増している。

このほど、公的機関として初めてCDC(疾病予防管理センター)とオースティン市(テキサス州)の公衆衛生当局が共同で、2018年9～11月の3カ月間に同市内の救急医療センターを受診した患者について調査したところ、190人がeスクーター走行中

の傷害またはその可能性とされた。48%は頭部外傷で、15%がくも膜下出血などの重篤な外傷性脳損傷の可能性があった。3人に1人が初めての使用で、ヘルメット着用者は1%未満であった。

2019年2月に、CR(コンシューマレポート)でも47都市の110病院の2017年秋以降のeスクーターによる傷害事故の集計結果を公表したが、負傷者が1,500人以上、4人が死亡との内容だった。その後も事故は増加し、母親が5歳児と同乗して転倒し子どもが車にひかれたケースを含め6月までに新たに4人の死亡が確認されている。新しい乗り物のため、交通規則や安全要項などが地域や事業者によって異なるのが現状だ。CRは、ヘルメット着用のほか走行する際の注意点(路面、自転車や対向車、歩行者、走行前の点検等)を守るよう呼び掛けている。



## イギリス

### フェイクレビューに惑わされない

- CMAホームページ <https://www.gov.uk/government/news/cma-expects-facebook-and-ebay-to-tackle-sale-of-fake-reviews>
- Which?ホームページ <https://press.which.co.uk/whichpressreleases/revealed-amazon-plagued-with-thousands-of-fake-five-star-reviews/>  
<https://press.which.co.uk/whichpressreleases/which-goes-undercover-to-expose-fake-and-paid-for-reviews/> ほか

イギリスのオンラインショッピングの総売上額は、CMA(競争・市場庁)によると年間230億ポンドに上るが、OFCOM(放送通信庁)の調査ではユーザーの約4分の3はECサイトのレビュー(購入者の感想や評価)を参考に商品を選択しているという。

ところが、2018年10月にWhich?が世界的規模のECサイトとSNSでアカウントを開設して調査したところ、これらのレビューの中には、高評価のレビューを投稿するように依頼されたものが多くあることが判明した。いわゆる「フェイクレビュー屋」のグループが数十あり、販売業者が対象商品を指定し必ず高評価を投稿するよう依頼、グループのメンバーが商品を購入して5つ星の評価とコメントを投稿すると代金や時には謝礼が支払われる。あるグループに入ったWhich?の覆面調査員が正直に低い

評価を投稿したところ、払戻金はなかったという。Which?はこれらの結果をECサイトとSNSに通知、両社とも「この問題について対抗措置をとる」などと表明した。

規制当局のCMAは、2018年11月～2019年6月にサイトの総点検を実施。世界的規模のSNSの26グループおよび別のECサイトに投稿されている100件以上の「フェイクレビュー売ります」リストを証拠として挙げ、それぞれに対処を求めた。両社は協力を表明、SNSでは24グループを削除し、セキュリティ監視チームを3倍に増員したと回答。CMAはこれを歓迎し、再発防止策に努めるよう要請した。

Which?は、フェイクレビューを見分けるコツとして、●無名ブランドの場合は販売者のプロフィールを確認する ●大量投稿は怪しい、などを挙げている。

## フランス

## トランポリン施設で相次ぐ重篤な事故

- Direccte Bretagne ホームページ <http://bretagne.directe.gouv.fr/Securite-des-parcs-a-trampolines>
- ドイツ商品テスト財団「テスト」2019年4月号 <https://www.test.de/Trampoline-im-Test-5451736-0/>

数年前より、トランポリン・パークと呼ばれる娯楽施設がフランス各地で増え続けており、家族連れや若者の人気を集めている。トランポリンでジャンプを行った後は、キューブ状の緩衝材で満杯の「スポンジプール」に飛び込むように落下して楽しむ。しかし、危険を伴う遊びであることから、重篤な事故も相次ぎ、特に、2018年1月、ブルターニュ地方のカンペールで21歳女性が脊椎に重傷を負った事故は、地元で大きく報道された。その翌月には、同国北端のダンケルクで、21歳男性が死亡している。いずれも、トランポリンからスポンジプールに飛び込んだ際に発生した事故である。

次々と発生するトランポリン事故を前に、行政機関も手をこまねているわけではない。Direccte Bretagne(ブルターニュ企業・競争・消費・労働・

雇用局)によると、DGCCRF(経済・財務省競争・消費・詐欺防止総局)と地方自治体等が、トランポリン事故に関する調査活動や行政指導、啓発を強化しているとのことである。

なお、トランポリン人気が高いのは、ドイツも同様である。ドイツ商品テスト財団は家庭用トランポリン10商品の安全性や使い勝手をテストした。全商品に落下防止ネットが付いており、家庭で組み立てるタイプである。しかし、素人が組み立てるのは難しく、技術者2人がかりでも2～4時間かかったという。しかも組み立て方を間違えると、マットとネットの間に隙間ができて、落下を防げない状態になると指摘する。さらに、ネットの継ぎ目に子どもの頭がはまり、首が絞まるおそれのある商品も見つかっており、消費者に注意を呼び掛けている。

## ドイツ

## 子ども連れの外出に便利な自転車用トレーラーだが

- 商品テスト財団「テスト」2019年7月号 <https://www.test.de/Fahrradanhaenger-im-Test-Fuenf-von-zwoelf-Kinderfahrradanhaengern-sind-mangelhaft-1859173-0/>
- 商品テスト財団ホームページ <https://www.test.de/Kinderfahrradanhaenger-Froggy-BTC07-Gurte-im-Test-gerissen-Tester-warnen-vor-Nutzung-5472765-0/>

小さな子どもを持つ親の移動手段として、日本の都市部では幼児同乗自転車をよく見かける。一方、ドイツでは、自転車用トレーラーの人気が高い。自転車に連結したリヤカーに幼児を乗せて、牽引するタイプである。1人乗り用と2人乗り用があり、ベビーカーとしても使用できる商品が多数を占める。犬専用のトレーラーもある。

自転車用トレーラーは、自転車用幼児座席に比べると価格が高いことから、価格に見合う品質なのか気になる。そこで、商品テスト財団では計12商品(2人乗り9商品、1人乗り3商品)を対象に、走行性、使い勝手、安全性等をテストすることとした。

その結果、3商品(815～900ユーロ)が好成績を収めたのに対し、5商品(96～500ユーロ)に不合格点がついた。同財団が特に問題視したのは、テ

スト中にシートベルトが破断した2人乗りの1商品(96ユーロ)である。同商品を使わないよう速報で呼び掛けたところ、事業者は販売を中止するに至ったとのことである。

また、有害物質が検出された商品のほか、転倒事故を想定したテストで、子ども(ダミー)の頭が地面に直撃しそうな商品等があった。さらに、子どもの年齢の上限を5～6歳とする商品が主流だが、5歳児が2人乗ると窮屈過ぎて動きが取れない商品が多かった。中には、3～4歳の子どもでもスペースに余裕のない商品もあり、身をかがめて乗車しなければならない構造は、人間工学的に問題だとした。

同財団は、同行する子どもが1人で、走行距離が短く、荷物も少ない場合は、価格が手頃な自転車用幼児座席のほうが経済的だと助言する。